

果樹カメムシ情報第3号

平成25年9月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、幸田町、豊川市及び新城市でいずれも8月下旬まで少ない状況が続いています(図1)。
- (2) 予察灯における誘殺数は、豊橋市及び新城市ともに8月中旬以降、増加傾向にあります(図2)。
- (3) 新城市では、果樹カメムシ類による果実の被害がカキで確認されています。

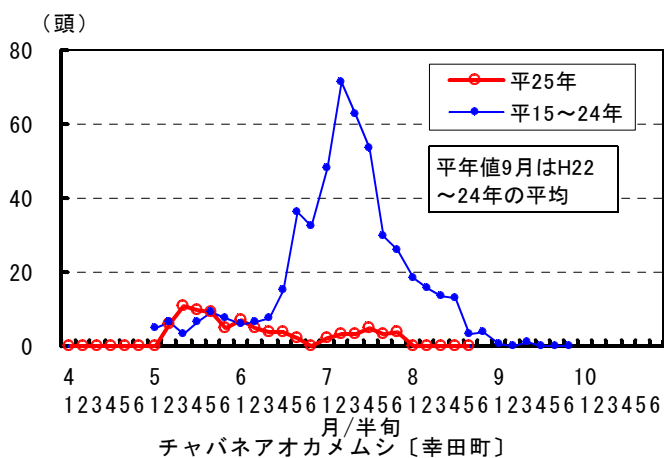


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数

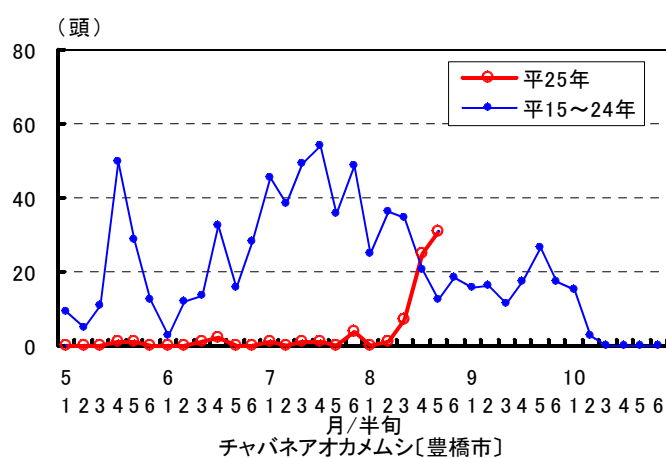


図2 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数

- (4) 8月下旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシ寄生虫数は、成虫0.35頭幼虫0.23頭と少ない状況です(図3)。口針鞘数が1球果当たり25本になると、ヒノキから離脱して果樹園などへ飛来すると言われてしています。今年はヒノキ球果が平年よりやや多いため、8月下旬のヒノキ1球果当たりの口針鞘数は、平均3.8本と少ない状況です(図4)。

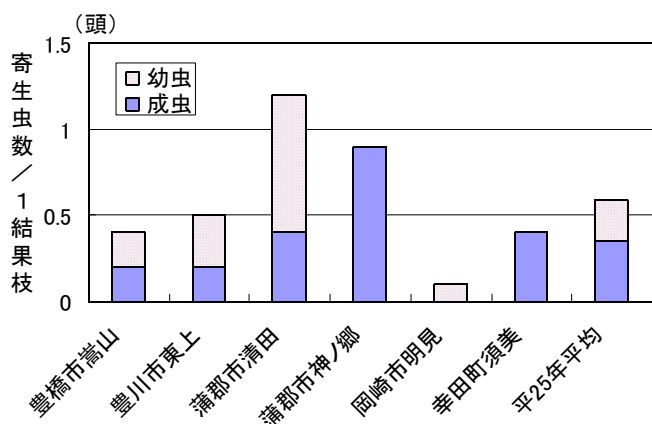


図3 ヒノキ結果枝におけるチャバネアオカメムシ寄生虫数

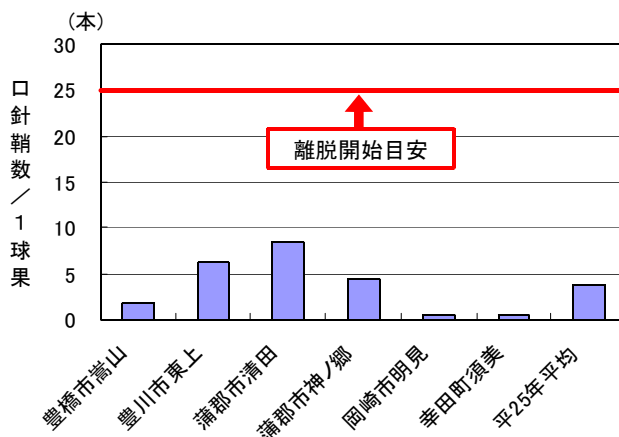


図4 ヒノキ球果における口針鞘数

2 今後の発生予測と対応

- (1) 餌であるヒノキ球果が平年より多いため、果樹カメムシ類は潤沢なヒノキ球果を餌にして山の中で繁殖している状態です。予察灯における誘殺数から、当年成虫の発生量も増加してきていると予測します。
- (2) 果樹カメムシ類がヒノキ林から離脱して果樹園へ飛来する時期は、8月下旬時点のヒノキ球果の口針鞘数から、9月下旬と予測します。そのため、9月上中旬は果樹カメムシ類の果樹園への飛来が少ない状況が続きますが、9月下旬以降、増加すると予測します。
- (3) 9月下旬以降は、果樹園内をよく見回り、果樹カメムシ類の飛来が増加したら早急に防除しましょう（表）。特に、果樹カメムシ類は夜温が高く、風がない夜に飛来が急増することがあるので、注意しましょう。
- (4) スギ・ヒノキ林近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので、注意しましょう。

表 カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	農薬名	系統
ナシ	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系
	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	ピレスロイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	スカウトフロアブル	ピレスロイド系
カキ	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系
	スカウトフロアブル	ピレスロイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	ピレスロイド系
カンキツ	モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	ピレスロイド系
	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系
	テルスターフロアブル	ピレスロイド系

注) コナカイガラムシ類の発生しているほ場では、コナカイガラムシ類の発生を助長するので、ピレスロイド系薬剤の使用は控えてください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。